学位プログラム評価指針を策定するためのガイドライン

令和４年９月９日
教育基盤機構

目次

１　学位プログラム評価指針とガイドラインについて

２　学位プログラム評価指針の策定について

２．１　検討事項

２．２　検討要領

Ⅰ．点検事項と収集する資料・情報の設定

（１）人材育成目標の適切さ

（２）カリキュラムの適切さ

（３）学修成果の評価と達成状況

（４）学位プログラムの継続的な改善状況

Ⅱ．実施体制の構築

参考資料　学位プログラム評価の概要

1　学位プログラム評価指針とガイドラインについて

・学位プログラム評価とは、学位プログラムによる人材育成の状況を点検し、必要な改善策を計画し実施に移すプロセスのことです。本学の教育の質保証を目的として、学部が主体となり実施するものです。

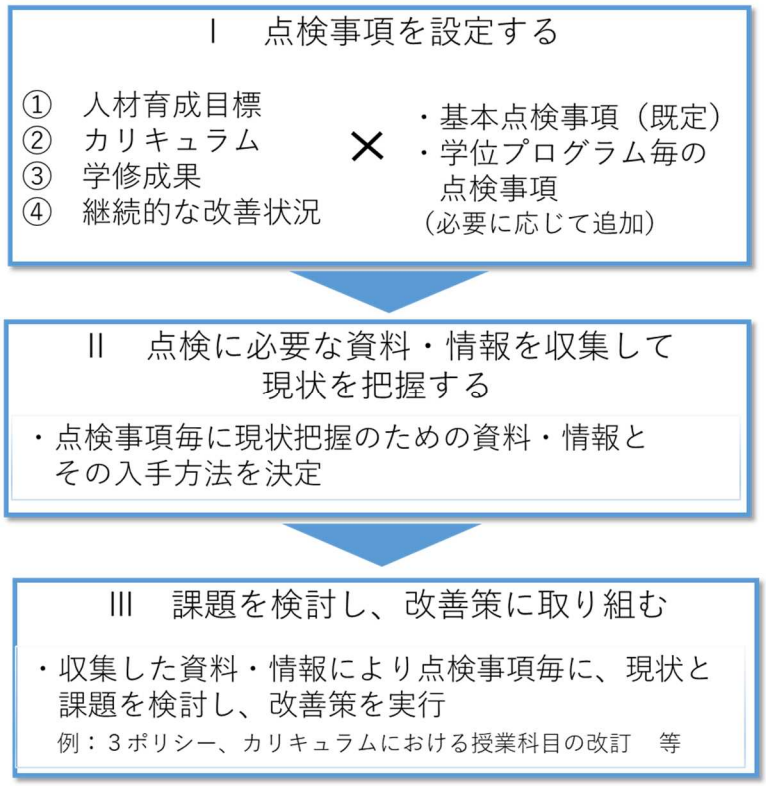
・具体的には、学位プログラムの「人材育成目標の適切さ」「カリキュラムの適切さ」「学修成果の評価と達成状況」「学位プログラムの継続的な改善状況」を基準として点検すべき事項を定め、資料・情報を収集して現状を把握するとともに、課題を検討して必要があればその改善策（例：３ポリシーの改訂や科目編成の改訂等）を立てて取り組みます（下図参照）。

・このガイドラインは、その際に各学部で検討いただきたい事項を記述したものです。

※　学位プログラム評価は、「総合点検」を６年毎に実施し、その結果に基づいて行う改善の実施状況を確認する「中間フォローアップ」を総合点検の３年後に実施します。

※　なお、総合点検は学部主体で実施しますが、学内でピアレビューを実施します。学位プログラム評価の概要（参考資料）を巻末に掲載しましたので、ご確認ください。

学位プログラム評価の実施過程



２　学位プログラム評価指針の策定について

２．１　検討事項

・学位プログラム評価の指針として検討いただくのは、大きく以下の２点です（※)。

（１）　点検事項と収集する資料・情報（内容、入手方法、担当者）
・共通の基本点検事項（既定）に、必要に応じて追加いただきます。

（２）　実施体制（責任者、実施担当者　など）

・検討要領（２．２）を参照し、別途エクセル形式で提供する専用フォーム（評価指針策定用シート）にて策定してください。

・なお、専用フォームを用いた学位プログラム評価指針の策定イメージを次ページに掲載しましたのでご参照ください。このような表を、学位プログラム単位で策定いただきます。

※　点検の具体的な実施方法や留意点等については、認証評価で用いる方法の観点等も踏まえて検討し、今後、改めて示すこととします。

学位プログラム評価指針の策定イメージ

下表の、赤い破線で囲んだ部分を記入いただきます（追加事項や実施体制の記載は例示であり、推奨するという意味ではありません）。

学位プログラム名：

点検事項、収集する資料・情報、入手方法等

		点検事項	資料・情報	入手方法	担当
（1）人材育成目標の適切さ					C准教授
	①人材育成目標（卒業生が身に付けるべき資質・能力）	どのような学修成果により卒業（修了）・学位授与を認定するか明確に記述されているか	ディプロマ・ポリシー	学部で準備	
		全学、学部の教育理念や目標から見て適切か	全学ディプロマ・ポリシー、学部ディプロマ・ポリシー		
		学生の進路の動向から見て適切か	学生の就職（業種、職種）、進学状況に係る経年データ　等	教育基盤機構より提供	
		就職先や学協会、政府など、ステークホルダーから見て適切か	就職先の意見、学協会、政府機関の報告書　等	学部準備	
		追加事項：グローバル経済の進展から見た適切さ	経済団体や政府機関の報告書　等	学部で準備	
	②プログラムの到達目標（目標としての学修成果）	プログラムシラバスの「到達目標（目標としての学修成果）」は、人材育成目標の記述と整合しているか	ディプロマ・ポリシー	学部で準備	
		追加事項：特になし			
（2）カリキュラムの適切さ					D准教授
	①カリキュラムの編成	カリキュラム・ポリシーにおいて、ディプロマ・ポリシーに示された目標の達成に向けた編成方針（科目構成と配置）、学修内容・方法、学修成果の評価方針を具体的に示しているか	カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー	学部で準備	
		科目構成は、プログラムシラバスの「目標としての学修成果」と対応しているか	カリキュラムマップ	学部で準備	
		科目の配置は、科目間のつながりや順序の観点からみて適切か	カリキュラムツリー、履修系統図、分野水準表示	教育基盤機構が基本様式提供,学部作成	
		追加事項：講義重点科目とアクティブラーニング重点科目の配置は適切か	カリキュラムツリー、シラバス	学部で準備	
		追加事項：学生の履修ニーズから見て科目の設置数は適切か	カリキュラムマップ、各科目の登録希望者数、登録者数　等	学部で準備	
	②カリキュラムの実施	科目の目標に応じた適切な指導が行われているか（内容、水準、学修方法　等）	シラバス、授業評価アンケート　等	授業評価アンケート、成績分布等は教育基盤機構より提供。それ以外の資料は学部で準備	
		授業外の学修時間確保など、単位の実質化のための配慮がなされているか	シラバス、授業評価アンケート　等		
		科目の目標に応じた適切な評価方法が定められ、適切な成績評価、単位認定がなされているか。また、そのことを組織として確認しているか。	シラバス、成績分布、各学部資料　等		
		シラバスの内容は適切に記載されているか	シラバス、授業評価アンケート		
		シラバスの記載内容についてチェックしているか	シラバス、授業評価アンケート		
		適切な学修支援体制が整っているか	履修指導や学習相談等の体制、実施状況に関する資料		
		カリキュラムについて周知し、達成度のアセスメントを定期的に行わせたか	毎学期のアセスメントシート等		
		追加事項：特になし			
（3）学修成果の評価と達成状況					C准教授 E准教授
	学修成果の評価と達成状況	卒業要件単位を修得した学生集団の成績分布は適切か	４年生時のGPAの分布、取得単位数等を視点とする成績資料	教員のチームが直接評価、学生調査等を実施して入手 卒業生に対する調査は、必要に応じて教育基盤機構の調査を提供	
		目標とする学修成果に学生が到達したかどうか状況を把握する適切な方法（学修成果の評価方法）を定めているか	学部で検討して記載 ○焦点を当てる学修成果（知識・能力） ○直接評価 主な例 ・集大成科目による学修成果の評価 ・学修成果のポートフォリオ評価 ・標準テストによる評価 ■学生調査（ヒアリング、アンケート　等） ■卒業生、進路先調査（ヒアリング、アンケート　等） ○その他収集する情報 国家試験合格率　等		
		プログラムシラバスで設定した「目標としての学修成果」があがっているか			
		追加事項：特になし			
（4）学位プログラムの継続的な改善状況					E准教授
	学位プログラムの継続的な改善状況	総合点検の実施体制は適切か	実施体制、活動状況に関する資料	学部で準備	
		総合点検の結果に基づいて改善策を適切に実行しているか	総合点検に基づく改善計画、カリキュラム改善の記録、学修成果を示す各種資料等	学部で準備	

実施体制
○総括責任者　A学部長
○実施責任者　B教授（進行管理）
○実施担当者　C准教授（点検実務）、D准教授（点検実務、報告書作成）、E准教授（点検実務、報告書作成）

※　シートの内容を検討、記載する際に、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを必要に応じて修正。
　　特に（3）の破線内の内容をカリキュラム・ポリシーに追加。
※　ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの整合性の観点から、アドミッション・ポリシーについても必要に応じて見直

２．２　検討要領

Ⅰ．点検事項と収集する資料・情報の設定

・学位プログラム評価では、基本枠組みにおいて（１）人材育成目標の適切さ、（２）カリキュラムの適切さ、（３）学修成果の評価と達成状況、（４）学位プログラムの継続的な改善状況の４つの基準で点検を行うことと定めています。

・次ページから、上記（１）～（４）の基準についての考え方と、これに基づく基本的な点検事項とその現状を把握するために収集する資料・情報についてお示します。この時、基本的な点検事項は規定の共通事項です。

・この中で、「■」を付した項目は、認証評価で満たすことが求められる大学評価基準に対応するものです。

・これらに、各学位プログラムにおいて追加すべき点検事項があれば記載してください。

・また、資料・情報を入手する担当者についても記載してください。

※　改組やカリキュラムの大幅な改訂を予定している場合は、新たな学位プログラムについて評価指針の策定をお願いします。

※　外部の専門団体からの評価を受けている学位プログラムは、点検事項のうち観点の重なる部分を外部評価で用いた資料・情報で代用することができます。

※　基本的な点検事項と収集する資料・情報は、今後の検討の中で微修正を加える可能性があります。この点、予めご了承ください。

（1）人材育成目標の適切さ

・この基準は、学位プログラムの人材育成目標の適切さについて、ディプロマ・ポリシーの要素である①人材育成目標（卒業生が身に付けるべき資質・能力）、②プログラムの到達目標（目標としての学修成果）の 2 点から点検するものです。

・学位プログラムは、原則として、本学の学生が身に付けるべき能力を示した「全学ディプロマ・ポリシー」、また「学部ディプロマ・ポリシー」を上位指針として、これに整合してデザインされているはずです。従って、人材育成目標についても、それぞれの学位プログラムでこの点の確認に留意することが必要です。

・また、学位プログラムの総合点検は短期間で頻繁に行うものではなく、安定実施の重要性から6年毎に実施することにしています。この時に重要なのは、6年間の様々な状況変化、とりわけ卒業生の進路動向など、社会における顕在・潜在的ニーズを踏まえて、人材育成目標の今日的な妥当性を確認すること、そして、これを反映した到達目標（目標としての学修成果）が適切な内容や水準になっているかを確認することです。

・このことを踏まえ、各学位プログラムにおいて追加する事項があれば、収集する資料・情報、入手方法、担当者とともに記載してください。

①人材育成目標（卒業生が身に付けるべき資質・能力）

点検事項	資料・情報	入手方法	担当者
■どのような学修成果により卒業・学位授与を認定するか明確に記述されているか	ディプロマ・ポリシー	学部で準備	
全学、学部の教育理念や目標から見て適切か	全学及び学部ディプロマ・ポリシー	学部で準備	
■学生の進路動向から見て適切か	学生の就職（業種、職種）、進学動向に係る経年データ　等	機構より提供	
■就職先や学協会、政府などステークホルダーから見て適切か	就職先の意見、学協会、政府機関の報告書等	学部で準備	
追加項目：			

※表中の「機構」は「教育基盤機構」のこと。以降の表で同様に記載。

②プログラムの到達目標（目標としての学修成果）

点検事項	資料・情報	入手方法等	担当者
■プログラムシラバスの「到達目標（目標としての学修成果）」は、人材育成目標の記述と整合しているか	ディプロマ・ポリシー	学部で準備	
追加項目：			

※表中の「プログラムシラバス」とは、主専攻プログラム規則における「学位プログラムの概要」にあたり、外向けの冊子やホームページで用いている呼称。

（2）カリキュラムの適切さ

・この基準は、カリキュラムの適切さについて、①カリキュラムの編成、②カリキュラムの実施の 2 点から点検をいただくものです。

・カリキュラムの編成については、目標とする学修成果の獲得に向けて適切な範囲と内容の授業科目が開設され、体系的に配置されているかを確認します。カリキュラムの実施については学生の学修の円滑な進展と修了に向けて、効果的に実施されているか確認することを趣旨としています。

・このことを踏まえ、各学位プログラムにおいて追加する事項があれば、収集する資料・情報、入手方法、担当者とともに記載してください。

①カリキュラムの編成

点検事項	資料・情報	入手方法	担当者
■カリキュラム・ポリシーにおいて、ディプロマ・ポリシーに示された目標の達成に向けた編成方針（科目構成と配置）、学修内容・方法、学修成果の評価方針を具体的に示しているか	カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー	学部で準備	
■科目構成は、プログラムシラバスの「目標としての学修成果」と対応しているか	カリキュラム・マップ	学部で準備	
■科目の配置は、科目間のつながりや順序の観点からみて適切か	カリキュラム・ツリー、分野水準表示	機構が基本様式提供、学部作成	
追加項目：			

※　カリキュラム・マップとは、プログラムの到達目標と各授業科目の対応表。カリキュラム・ツリーとは、プログラムにおける各授業科目間（特に、教育上主要と認められる必修科目）の関連図。

②カリキュラムの実施

点検事項	資料・情報	入手方法	担当者
■科目の目標に応じた適切な指導が行われているか（内容、水準、学修方法　等）	シラバス、授業評価アンケート　等	授業評価アンケート、成績分布等は機構より提供 それ以外の資料は学部で準備	
■授業外の学修時間の確保等、単位の実質化のための配慮がなされているか	シラバス、授業評価アンケート　等		
■科目の目標に応じた適切な評価方法が定められ、適切な成績評価、単位認定がなされているか。また、そのことを組織として確認しているか	シラバス、成績分布、各学部資料　等		
■シラバスの内容は適切に記載されているか	シラバス、授業評価アンケート		
シラバスの内容等について適切なチェックがなされているか	各学部資料、授業評価アンケート		
■適切な学修支援体制が整っているか	履修指導や学習相談等の体制、実施状況に関する資料　等		
カリキュラムについて周知し、達成度のアセスメントを定期的に行わせたか	毎学期のアセスメントシート　等		
追加項目：			

（３）学修成果の評価と達成状況

・この基準は学位プログラムとして、ア）卒業率の状況、また卒業要件単位を修得した学生集団の成績分布は適切か、イ）目標とする学修成果に学生が到達したかどうか状況を把握する適切な方法（学修成果の評価方法）を定めているか、ウ）プログラムシラバスで設定した「目標としての学修成果」があがっているかの３点について点検するものです。

・上記イ）について、学生の最終的な学修成果の状況を把握するためには、卒業要件単位の修得の上にたち、さらに学修成果の適切な評価方法の導入が重要となります。各学部の教育課程の特性に即しつつ、学生からの意見聴取等を通した学修成果の間接的な把握と併せ、原則として、学修成果の直接評価（学生の知識や成果物、実演等を通して学修成果を直接的に評価する方法）の導入をお願いします。

・さらに、学修成果の卒業後の有効性を検証することも重要であり、大学評価基準でも定められたところです。この点に留意して、卒業生や雇用先からの情報・意見の把握も併せてお願いします。なお、卒業生や雇用先に対する調査は各学部で独自に実施されていると思いますが、卒業生に対する調査は教育基盤機構でも３年毎に実施されています。これら既存データの積極的な活用も望まれます。

・これらの点に留意して、各学位プログラムで、学修成果を確認するためにどのような評価方法とするか検討をお願いします。評価方法の詳細については、10～11 ページの「学位プログラムに関するプログラムレベルの学修成果の評価方法について」を参照してください。

※上記イ）「目標とする学修成果に学生が到達したかどうか状況を把握する適切な方法（学修成果の評価方法）」を検討する際に、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを必要に応じて修正してください（例：評価の対象として焦点を当てる、特に重要な学修成果（知識・能力）の検討がディプロマ・ポリシーの見直しにつながる場合等）。

※特に、平成 30 年度に改訂された大学評価基準に対応する観点から、カリキュラム・ポリシーには上記の学修成果の評価方法を追加するようお願いします（3 ポリシー見直し用シートは別途提供します）。

※ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの整合性の観点からアドミッション・ポリシーについても必要に応じて見直しをお願いします。

※ウ）プログラムシラバスで設定した「目標としての学修成果」があがっているかの確認については、初回の点検の時点で改組等により卒業者を輩出していない学位プログラムは、総合点検の３年後に実施する中間フォローアップから行うこととします。

<table>
<tr><th>点検事項</th><th>資料・情報</th><th>入手方法</th><th>担当者</th></tr>
<tr><td>■卒業率の状況、また卒業要件単位を修得した学生集団の成績分布は適切か</td><td>標準修業年限内の卒業率
４年生時のGPAの分布
取得単位数等を視点とする成績資料</td><td>機構より提供</td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td>目標とする学修成果に学生が到達したかどうか状況を把握する適切な方法（学修成果の評価方法）を定めているか</td><td><u>次ページの「学位プログラムに関するプログラムレベルの学修成果の評価方法について」を参考に、学修成果を確認するための評価方法について学部にて検討して、記載してください</u>
〇焦点を当てる学修成果（知識・能力）
〇直接評価
<u>主な例</u>
・集大成科目による学修成果の評価
・学修成果のポートフォリオ評価
・標準テストによる評価
■学生調査（ヒアリング、アンケート　等）
■卒業生、就職先調査（ヒアリング、アンケート　等）
〇その他収集する情報
国家試験合格率　等</td><td>教員のチームが直接評価、学生調査等を実施して入手

※学生調査、卒業生調査、雇用先調査については機構の調査結果等を必要に応じて提供</td></tr>
<tr><td>■プログラムシラバスで設定した「目標としての学修成果」があがっているか</td><td colspan="2">（上で定めた方法の実施結果）</td></tr>
<tr><td colspan="3">追加項目：</td></tr>
</table>

参考：学位プログラムに関するプログラムレベルの学修成果の評価方法について

（１）基本的な考え方

・目標とする学修成果に学生が到達したかどうかの状況を把握するために、人材育成目標につながる特に重要な学修成果（知識・能力）を定め、これに焦点を当てて評価する方法を設定する。

・評価方法としては、学生が身に付けた知識・能力を、学修の成果物等により教員が直接確認する直接評価と、学生の認識等を通して確認する間接評価がある（（２）で詳述）。直接評価を基本として間接評価を組み合わせて実施することで、学生が学位プログラムを通して身に付けた知識・能力、これに影響を与える学生側の要因等を把握することが可能である。

・併せて、学修成果の卒業後の有効性についても、就職先からの卒業生に対する評価、卒業生の意見（アンケートやヒアリングなど）等から把握する。

・これらの結果を総合的に検討し、カリキュラムの具体的な改善につなげる。

（２）評価方法について

①直接評価

・学生の学修成果（身に付けた知識・能力）について、ルーブリックなどを使用して基準や尺度を明確にし、到達段階を直接評価するものである（以下、主な評価方法を３点例示）。なお、学位プログラム評価では、評価対象は必ずしも全例である必要はないが、偏った結果を避けるために十分なサンプル数の確保や無作為抽出などの配慮が望まれる。

〇集大成科目による学修成果の評価

・集大成科目（学修の総仕上げとなる、卒業間近の授業科目）を一つまたは複数選定して目標とする学修成果が身に付いているかを確認する方法。例えば、卒業論文や卒業研究、実習や実演などカリキュラムに即して設定する。

〇学修成果のポートフォリオ評価

・学生が蓄積してきた学修の成果物（レポートや論文、作品など）を経年的に集め、目標とする学修成果が、どのように身に付いてきたのかを確認する方法。

〇標準テスト

・市販の能力アセスメントなどを活用して、身に付いた学修成果の水準を確認する方法。全国値など、ベンチマークを設定して学生の能力水準を確認することが可能だが、一般的には教育目標とする能力と必ずしも対応しないため、傍証として用いることが有効。

②間接評価

・学生の学修成果について、学生本人の認識を通じて、間接的に評価するものである（代表例として、学生調査について以下に記載）。直接評価を補完する評価として、両者を組み合わせて実施することが勧められる。

○学生調査

・学生調査（アンケート、フォーカスグループインタビュー等のヒアリング）を併用し、学修成果に対する自己評価に加えて、カリキュラムへの満足度、学修の実施状況や意識等まで広く把握を行うことが有効である。

・これにより、学修の過程及びその成果に影響する要因を理解し、改善に活かす材料を収集する手立てとなる。

③学修成果の卒業後の有効性の把握

・学修成果の卒業後の有効性について、卒業生の就職先、卒業生に対する調査で把握する。この時、アンケートによる量的調査にとどまらず、ヒアリングによる質的調査を組み合わせることが望ましい。学修成果の卒業後の有効性について背景まで踏み込んで検討するために重要である。

・この調査は、人材育成目標の適切さの検討にもつながるものである。このため人材育成目標の検討と学修成果の有効性を把握する調査は、統合して実施することが望ましい。

・なお、卒業生に対する調査は教育基盤機構でも３年毎に実施されている。質問内容を確認した上で、必要に応じて活用を検討する。

（３）その他必要な情報

・専門職業人を養成する学位プログラムの場合は、学修成果の評価を補完する情報として専門職業資格の取得状況を確認することが重要である。

・なお、就職率は経済状況が影響することがあるため、継続的に学修成果を確認する情報としては、必ずしも適さない。

（４）学位プログラムの継続的な改善状況

・この基準は、学位プログラム評価（総合点検）の結果を踏まえた改善を着実に実行しているか、について確認いただくものです。取り組みの進捗状況・成果とともに、評価・改善の実施体制（次項（２）で策定）のあり方まで捉えて確認をいただくことが重要です。

・なおこの項目は、追加事項の検討は特に必要ありません。

点検事項	資料・情報	入手方法	担当者
■総合点検の実施体制は適切か	実施体制、活動状況に関する資料	学部で準備	
■総合点検の結果に基づいて改善策を適切に実行しているか	総合点検に基づく改善計画、カリキュラム改善の記録、学修成果を示す各種資料等	学部で準備	

※点検事項のうち「総合点検の結果に基づいて改善策を適切に実施しているか」については最初の総合点検の３年後に実施する中間フォローアップから行うこととします。

Ⅱ．実施体制の構築

次の点に留意して、学位プログラム評価の実施体制について、プログラム毎に決めてください。

・総括責任者（１名）、実施責任者（１名）と実施担当者（複数）を決めてください。総括責任者は原則として学部長にお願いします。

・実施責任者については、カリキュラム編成に責任を持たれる方にお願いします。

・組織のあり方についてはお任せしますが、評価に特化した組織を新設する必要はありません。これまで各学部でカリキュラムの点検や改善を担ってこられた会議体等があれば、そのままご担当いただいて結構です。

・学位プログラム評価は、点検だけで終わるものではなく、その結果に基づく学位プログラムの改善を計画し実行することが何よりも重要です。この点に留意し、点検と改善の過程を一貫して担う体制の構築に留意ください。

（参考資料）　学位プログラム評価の概要

１　学位プログラム評価とは

学位プログラム評価とは、学修成果を示す適切な指標を設定して、学位プログラムによる人材育成の状況を点検し、必要な改善策を計画し実施に移すプロセスです。学位プログラムの不断の点検と改善によって、学生の学びと成長を保証することを理念としています。

２　学位プログラム評価の対象

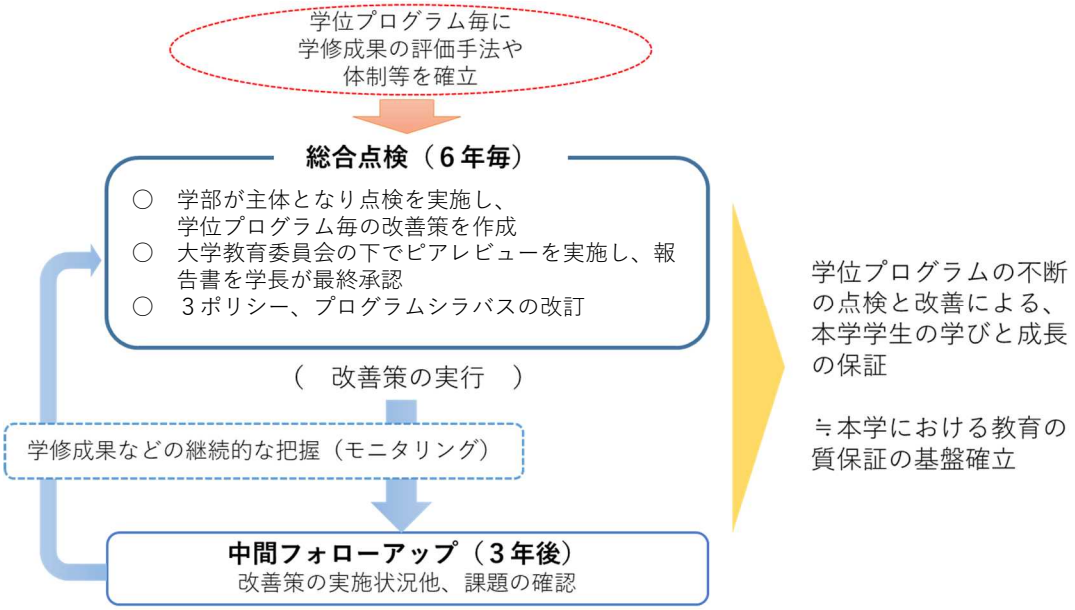
学位プログラム評価は、本学において開設する学位プログラムのうち、学士課程の学位プログラムを対象としています（修士課程については学位プログラムの整備と並行して導入予定）。

３　実施主体

学位プログラム評価は、学長の全体統括の下、学位プログラムの編成・実施に責任を持つ学部等を主体として実施します。

４　実施内容

学位プログラム評価では、６年毎に、学部において学位プログラムの人材育成目標やカリキュラムの適切さ、学修成果の状況等について点検し、その結果に基づいた改善計画を策定していただきます。また総合点検の結果と改善計画について、大学教育委員会の下でピアレビューを実施します（総合点検）。

総合点検から３年目に、大学教育委員会において改善計画の実施状況を確認します（中間フォローアップ）。通常年度においても、履修状況や学生の学修成果に対する意識などを継続的に把握し、必要な授業改善などを進めてください（モニタリング）。

学位プログラム評価の全体像